

ラジコンヘリシステム導入

空撮事業に進出

建築点検で活用 医薬品搬送も

情報システム事業などを手がけるサイエンスネット(本社大垣市小野、深井隆司社長、電話0584・83・1167)は、ラジコンヘリコプターを使った空中撮影事業に参入する。建築構造物に対する目視点検の厳格化への対応、太陽光発電設備の保守管理や不動産開発用地の空撮需要のほか、非常時の医薬品搬送など多様なニーズを開拓する。

(大垣・上野昌宏)

同社と関連子会社ユースフルパースンは太陽光発電設備の設計施工から保守点検業務まで手がけている。この遠隔監視システムに加え、昨年7月にはラジコンヘリを導入し、空中撮影による点検業務を開始している。

こうした自社関連設備での活用実績を踏まえ、新規事業「フライトサイエンス」として、ことし1月から社外の空撮に特化したラジコンヘリコプター

なものから一般住宅まで多種多様に普及しているが、空撮を利用すれば効率的に点検が可能。このほか、地上から確認しづらい不動産開発用地や観光施設、完成記念やPR用、学校行事の全景など、幅広い分野の撮影にも利用できる。

同社はこうしたニーズに対応し、操縦安定性に優れた空撮専用の軽量小型ラジコンヘリを大、小の2タイプ各1機(DJI社製)を導入。購入費用は約200万円で、搭載カメラの組み込みなど撮影システムを自社で構築した。



空撮専用のラジコンヘリコプター

受託業務にも本格的な取り組みを開始した。道路、橋りょうの土木工作物や公共施設など、社会資本の長命化に伴う事故防止・安全対策から施行令が改正。目視による定期点検が厳格化されたのに伴い、精密で正確な現場状況を確認できるカメラなどの画像情報に対するニーズが高まっている。

しかし、既設物の立地条件によっては通常のカメラ撮影が困難なケースもあるため、低空間や狭い領域でも自由に撮影できるラジコンヘリの活用が期待されている。

太陽光発電設備は大規模